行事による子どもの成長の検討
―学生の幼児期の行事に対する考えと振り返りから―

足　立　里　美

Study of child development according to events -Looking back on events of early childhood students who are aiming to be nursery school teachers

Satomi ADACHI

Abstract

Nowadays, certain events in nursery school and kindergarten are firmly entrenched and considered essential. However, exactly how these events contribute to the maturation of a child has yet to be examined.
The present study consisted of surveys completed by 114 university students who aspire to become childcare teachers. Questions such as, “Which event do you think is important for the maturation of children in nursery schools and kindergartens ? ” and “What events did you experience in nursery schools and kindergartens ? ” The results of this study of growth by events was divided into three phases. Moreover, these three stages consisted of two broad categories, one being “presentations” and the other being “sports day gatherings.”

Key words

Events, infancy, maturation

Ⅰ．問題の所在

日本における「年中行事」は，あらゆる時期にあらゆる土地で行われている[1)]。それは，それぞれの土地ごとの社会組織や信仰のありよう，生産のリズム等を反映して成立し，保持されているもの[2)]であり，社会・人事・信仰上の節目として，大きな意義を持つ[3)]とされている。子どもたちにとっても特別な日とされ，晴れ着を着て，特別な食事をすることで日常を払拭し，次の行事までの黙々と過ごす日常の支えであった[4)]。

それでは，幼稚園や保育所（以下園とする）において，行事はどのようなねらいを持って行われているのか。高橋（2004）[5)]は，保育における行事の意義と役割を，①子どもの生活を豊かにする，②環境とのふれあいを広げる，③機会教育になる，④集団の形成に意義がある，としている。このようなねらいの下，園の保育活動の中に行事は大きな比重を占めるようになり，“重要な教育方法と手段として日常の保育と密接に結びつき，教育目標の達成に大きな役割を果たしている”，という「行事中心保育」が指摘されるようになった[6)]。

そのような現状を反省し，2009年より施行されている幼稚園教育要領及び保育所保育指針で

は，行事は“生活に変化や潤いを与える”と肯定する一方で，その実施にあたっては，日々の流れに配慮すること，子どもの主体的な活動であること，教育的価値を十分に検討すること，幼児の負担にならないこと，など十分な配慮の下で精選することが求められている。現在，園で行われている行事は，①伝統的な行事（子どもの日や七夕など），②成長の節目（入・卒園式・誕生会など），③保育のまとめとして行うもの（運動会・生活発表会など），④日常と違った環境での行事（遠足・お泊り保育など），⑤保健・安全を目的とした行事（身体測定・非難訓練など）などがあるとされている[7]。それでは，園ではこのような多彩な行事の中からどのように行事を精選すればいいのであろうか？その一つの考えとして，「子どもの成長を促す行事」であることに視点を置き，取り入れていく方法があると思われる。そこで，「行事による成長」に関わる先行研究を概観した。しかし，現在行われている園行事の研究は，「あるひとつの行事の意義」[8)9)]，「実態と評価」[11)11)]，「障害児と行事」[12)13)]，「行事食について」[14)]などであり，実際に行事全体を振り返り，その成長を問うものは著者が知る限り見当たらなかった。私たちは改めて「子どもの成長を促す行事」を考えていく必要があると思われる。

本研究の目的は，①どのような園行事が子どもの成長を促すか，②それらの行事はどのような成長の過程を経ると考えられるか，③行事を計画するための園の配慮，を検討することである。

Ⅱ．研究方法

1．調査方法：質問紙法

行事による子どもの成長を検討する方法は，保育現場におけるフィールドワークやインタビューなど様々な方法が考えられる。しかし，幼児期の子どもに「成長」について言語化した説明を求めることは非常に困難であることが予想される。また，現代のように園での行事が多様化し，多岐に渡っていることを考えると，幅広い行事に対する意見が必要である。そこで，本研究においては，研究の第一段階として，学生を対象に質問紙法による研究を行うこととした。その主な理由としては，①行事の意義や成長についての具体的な言語での説明が可能である，②在籍している園が異なっている可能性が高いため，より多くの行事を対象・検討することができる，ことである。

2．調査対象者

平成24年度に開講されている幼稚園１種免許状必修科目「保育内容表現Ⅰ」及び保育士資格必修科目「保育方法論」の受講者114名（重複して受講している者は在籍していない）。対象者の内訳は，性別：男性７名（6.1％），女性107名（93.9％）。学年は１年生から３年生。年齢は18歳から21歳（平均年齢：18.7歳，標準偏差：0.74）である。なお，実施日までの期間の授業内において，「行事」を主に学習するような内容は含まれていない。

3．質問内容

授業内で「行事に関するアンケート」の協力をお願いし，以下の２項目の質問を行った。

質問１「あなたの園での経験を踏まえ，幼稚園や保育所で行う行事の中で，子どもの成長に大切だと思うものを三つ書いてください。またそう思った理由を行事ごとにひとつ書いてください。」

質問２「あなたが幼稚園や保育所に通っていた時に一番印象に残っている行事とその理由をひとつ書いてください。」

なお，回答は現在の園の保育方法の多様性を考慮し，自由記述とした。

３．実施日　2013年７月

４．説明と同意

本アンケートの結果は①「行事」に関する研究に使用させてもらうこと，②研究結果については，名前が出ることがないこと，③内容は数量的に処理すること，の説明を行い，提出は必須ではないことを付け加えた。結果，受講出席者118名のうち提出した学生は114名であった（回収率・有効回答率：96.6％）。

５．分析方法

学生が自由に記述した内容の概念化及び構造化については，以下の手続きを踏んで分析を行った。

①データから類似していると思われる概念を抜き出し，②同じシートに集約し，③カテゴリー名を付け，④抽出されたカテゴリーの関係を検討し，関連図を作成した。なお，回答者が回答した数量的な処理については，このカテゴリーに基づいて，統計ソフト Excel 及び SPSS（バージョン20）を用いて処理を行った。

Ⅲ．結果

１．学生が子どもの成長に大切であると考えている園行事とその理由

１－１．学生が子どもの成長に大切であると考えている園行事

１人につき３つの回答を求めた結果，回答数は全体で333，一人あたり平均は2.9の回答数であった。行事カテゴリーの一覧を表１に，結果を表２に示す。行事の中でも運動会（85.1％），発表会（72.8％）が非常に高い数値となっており，対象学生の７割以上が運動会や発表会は乳幼児期の子どもの成長に欠かせない行事だと感じているという結果となった。

１－２．学生は園で行う行事が子どものどのような成長に繋がると捉えているか

学生が自由記述した，「子どもの成長に大切だと思う行事の理由」を整理した結果，21の成長に関わるカテゴリーを抽出した。なお，この成長を三つの段階に定義した（表３）。この定義に沿って21のカテゴリーを分類した結果，第１段階は14カテゴリー（表４），第２段階は４カテゴリー（表５），第３段階は３カテゴリー（表６）となっている。なお，第１次成長としている14のカテゴリーは，内容が近いと思われるものをまとめ，「人間関係の広がり」，「社会性の獲得」，「能力・技術の獲得」及び「体験による知識の獲得」の４つの項目に整理した。

学生の333の回答に対する前記カテゴリー別の数は，第１次成長が282（114人），促しが120（83人），第２次成長が73（53人）となった。また，成長を単独で回答しているか，複数の段階を回答しているかを整理した結果，①単独で記述されたもの219，（内訳：第１次成長：202，促し：13，

第２次成長：４），②第１次成長→促しは45,③促し→第２次成長は34,④第１次成長→第２次成長は7,最後に，⑤第１次成長→促し→第２次成長の全てが記述されたものは28であった。

表１　行事カテゴリー一覧

行事カテゴリー	内容の例
運動会	運動会・体育祭　など
発表会	お遊戯会・学芸会・音楽会など
入園式・卒園式	セレモニーとして
遠足	※親子遠足を含む
母の日・父の日・敬老の日	親子や祖父母参加の保育（参観日を含む）
誕生会	形式は全体・クラス毎など様々である
宿泊保育	お泊り保育・キャンプなど
農業・自然・動物体験	芋掘り・田植え・稲刈り・栗拾い・移動動物園など
季節の行事	餅つき・節分・雛祭り・七夕・夏祭り・クリスマス会など
そのほか	縄跳び大会・かるた大会・マラソン大会など
日常の保育の中で	泥んこ遊び・お店屋さんごっこ・給食・散歩・絵本など

表２　学生が子どもの成長に大切だと感じている園行事

（n＝114：複数回答）

行　　事	回答数	%
運動会	97	85.1%
発表会	83	72.8%
遠足	33	28.9%
入園式・卒園式	28	24.6%
季節の行事	20	17.5%
宿泊保育	17	14.9%
農業・動物・自然体験	16	14.0%
誕生会	14	12.3%
日常の保育	3	2.6%
そのほか	22	19.3%
合計	333	

表３　成長段階の定義

段階	第１段階	第２段階	第３段階
成長	第１次成長	促し	第２次成長
日	行事の計画・準備～後日	行事当日	当日の行事終了後あるいは後日
具体的例	企画・練習・皆で考える作り物・飾り付け　など	発表する・成長を思い出す	行事の感想を言う・反省する
備考	基本的には行事の前日までを前提としているが，当日や後日に獲得する行事もある	第１段階から第２段階への促しカテゴリーとして，成長欄には「促し」と記載した	

表４　第１段階（第１次成長）

	カテゴリー	具体的内容
人間関係の広がり	親子のふれあい	
	友だちとのふれあい	
	地域の方々とのふれあい	
社会性の獲得（除：人間関係）	自立性の獲得	自立心
	集団力の獲得	協力・チームワーク・協調性など
	他感情の獲得とコントロール	悔しい心・思いやりの心・感謝の心など
能力・技術の獲得	運動能力・体力の向上	体力・筋力・楽しんで身体を動かす
	想像力・思考力の育成	どうしたら勝てるか？どうしたらうまくできるか？
	知識の獲得	ことばや文字など
	表現力の育成	役になりきる
	芸術力の育成	美しいと思う心
体験による知識の獲得	異文化に対する知識	通常の保育では体験しない場所・時間・人などに関する知識
	自然や動物に対する知識	生命について・季節についてなど
	日本の伝統文化に対する知識	雛祭り，端午の節句などに関する知識

表６　第２段階（促し）

カテゴリー	具体的内容
成長を披露する場	人の前に立ち自分を披露したりされる経験
成長を振り返る場	改めて園での生活を思い出し，自分の成長を実感する経験
自分自身を表現する経験	自分のことばで意思を伝える経験
褒められる経験	他者から認められたという経験

表５　第３段階（第２次成長）

カテゴリー	具体的内容
自己の居場所の認知	園における自分の居場所と役割の認知
自己有能感	自分にもできる，やれるという感覚
自己肯定感	自分を知る・自己意識への気づき

学生が各段階においてどのような成長が促されると考えているかを一覧にした。第１次成長（表７）では，「集団力の育成」が多かった。（26.7％）。また，第１次成長と第２次成長の促し（表８）では，「成長を披露する場」を回答した学生が多い。（73.3％）。第２次成長（表９）では「自己肯定感」（46.6％）や「自己有能感」（39.7％）が多かった。

表７　第１次成長の回答内容

カテゴリー	回答数	％
集団力の育成	75	26.7％
友だちとのふれあい	34	12.1％
自然や動物に対する知識	33	11.7％
運動能力・体力の向上	22	7.8％
情緒の形成とコントロール	21	7.5％
社会性の育成	19	6.8％
親子のふれあい	19	6.8％
表現力の育成	18	6.4％
異文化に対する知識	18	6.4％
日本の伝統文化に対する知識	13	4.6％
地域の人々とのふれあい	6	2.1％
想像・思考力の育成	2	0.7％
技術力の育成	1	0.4％
芸術力の育成	1	
合計	282	

表８　第１次成長と第２次成長の促しの回答内容

ツールカテゴリー	回答数	％
成長を披露する場	88	73.3％
成長を振り返る場	23	19.2％
自分自身を表現する機会	8	6.7％
褒められる経験	1	0.8％
合計	120	

表９　第２次成長の回答内容

カテゴリー	回答数	%
自己肯定感	34	46.6%
自己有能感	29	39.7%
自己の居場所の獲得	10	13.7%
合計	73	

１－３．「第１次成長→促し→第２次成長」の全てが促される行事は何か

第１次成長→促し→第２次成長の全てが記述された行事としては，28の回答があり（表８），運動会15（53.6%），発表会９（32.1%）が多かった（表10）。

表10　成長の理由として「第１次成長→促し→第２次成長」の全段階があげられた行事

行事カテゴリー	回答数	%
運動会	15	53.6%
発表会	9	32.1%
入園式・卒園式	2	7.1%
誕生会	1	3.6%
季節の行事	1	3.6%
合計	28	

２．学生自身が印象に残っている園行事とその理由

２－１．印象に残っている行事

学生が自分の在園した幼稚園及び保育所で印象に残っている行事（表11）は，発表会：34（29.8%），運動会：24（21.1%）の順であった。なお，季節の行事：18（15.8%）もその次に多く記述されていた。

２－２．印象に残っている行事の理由

自由記述されているものから15のカテゴリーを抽出した。また，それらを“肯定的に捉えられているもの（ポジティブ要因）”，“否定的に捉えられているもの（ネガティブ要因）”及び“否定的であったが，その後肯定的に変化しているもの（中立的要因）”の３つに大別した（表12）。結果，８割以上の学生は肯定的な理由を回答していた。しかし逆に捉えると，２割近い学生は否定的あるいは中立的な体験が一番印象に残っていると回答している結果となった（表13）。

３．学生が現在，「子どもの成長に大切だと思っている行事」と「自分の在園時に印象に残っている行事」との関係

学生が，「子どもの成長に大切だと思っている行事」としてあげたものと，「自分の在園時に印象に残っている行事」とに関連性があるかどうかを見るためにクロス集計を行った。結果，自分

表11　在園した園で最も印象に残っている行事

行事カテゴリー	回答数	%
発表会	34	29.8%
運動会	24	21.1%
季節の行事	18	15.8%
宿泊保育	11	9.6%
遠足	5	4.4%
入園式・卒園式	4	3.5%
日常の保育	3	2.6%
農業・動物・自然体験	2	1.8%
誕生会	2	1.8%
母の日・父の日・敬老の日	1	0.9%
そのほか	9	7.9%
未記入	1	0.9%
合計	114	

表12　学生の在園時の行事印象カテゴリー

	印象カテゴリー	概　　要
ポジティブ要因	達成感	行事までの過程の出来事・当日の頑張り・良好な結果
	人間関係	友だちや保育者との関わりの中での思い出
	成長の披露	人前で自分を発表・表現する体験あるいはされた経験
	異文化性	通常の保育では体験しない場所や時間の経験・普段接しない人々との交流など
	家族とのふれあい	父・母・祖父母・兄弟姉妹などとの園内での関わり
	他者からの褒められ	家族や保育者からの賞賛・認められたことば
	動物や自然とのふれあい	命の大切さや自然の美しさへの気づき
	何かを任された経験	劇の中の配役・当番・係など，自分が責任を持って成し遂げた経験
	一体感	チーム・クラスなどで目標に向かう中で生まれた連帯感
	芸術へのめざめ	美術や音楽などに対する驚きと発見
	成長への憧れと実行	年長クラスにしかできないことを達成した喜び
中立要因	勇気・自立	恐いこと・辛いこと・淋しいことなどを体験したが乗り越え自立へと繋がった経験
	アクシデント・ハプニング	行事中にアクシデントなどに見舞われたが周囲の支援によって乗り越えた経験
	悔しさ	悔しく辛い思いをしたが，それを乗り越え，さらに努力するようになった経験
ネガティブ要因	恐い・不安	恐い・辛い・不安な体験をし，今も乗り越えていない経験

表13　印象深かった理由

	印象カテゴリー	回答数	%	要因数
ポジティブ要因	達成感	29	25.4%	93（81.6%）
	異文化性	22	19.3%	
	成長の披露	11	9.6%	
	何かを任された経験	8	7.0%	
	人間関係	6	5.3%	
	成長への憧れと実行	6	5.3%	
	家族とのふれあい	4	3.5%	
	動物や自然とのふれあい	3	2.6%	
	他者からの褒められ	2	1.8%	
	一体感	1	0.9%	
	芸術へのめざめ	1	0.9%	
中立要因	勇気・自立	9	7.9%	17（14.9%）
	アクシデント・ハプニング	6	5.3%	
	悔しさ	2	1.8%	
ネガティブ要因	恐い・不安	3	2.6%	3（2.6%）
	未記入	1	0.9%	1
	合計	114		114

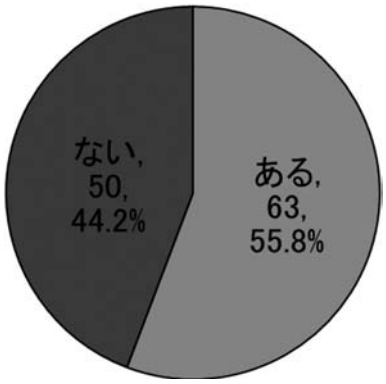

図１　「子どもの成長に大切な行事」と
「自分が印象深い行事」との関係

表14「自分の在園時に印象に残っている行事」を「子どもの成長に大切だ」としている行事

行　　事	回答数
発表会	28
運動会	23
宿泊保育	4
季節の行事	4
遠足	4
卒園式	0
誕生会	0
参観日	0
農業・動物・自然体験	0
日常の保育	0
合計	63

の在園時に印象が残っている行事が子どもの成長に大切だと考えている学生は，63名（55.8％）であった（図１）。なお，この63名があげた行事の一覧を表14に示す。

Ⅳ．考察

１．どのような園行事が子どもの成長を促すと考えられるか

学生が回答した“子どもの成長に大切だと感じている行事”（表２），“在園した園で最も印象に残っている行事”（表11）は，両者ともに「運動会」，及び「発表会」という，“保育のまとめとしての行事”[15]が非常に多いという結果となった。これらの結果からみると，「運動会」，「発表会」は，子どもの成長に欠かせない行事として位置付けられる可能性が高い。また“「自分の在園時に印象に残っている行事」を「子どもの成長に大切だ」としている行事”（表13）においても「運動会」，「発表会」と回答している学生が多かった。なお，この回答で「運動会」や「発表会」と回答した学生は，「運動会」，「発表会」の印象をポジティブ，あるいは中立的なものとして捉えており，ネガティブな回答をした学生は１人もいなかった。つまり，「楽しかった思い出の行事」＝「子どもの成長に必要な園行事」として認知される可能性も否定できないと思われた。

２．行事はどのような成長の過程を経ると考えられるか

園で体験する行事には３つの段階（成長）があることが示唆された。つまり，①行事前日まで（一部当日や後日に獲得する場合もある）②行事当日，③当日の行事終了後あるいは後日，という３つの段階である。以下，上記１で子どもの成長に重要な行事として示された「運動会」及び「発表会」の過程を中心に（一部他の行事も踏まえながら）詳細を述べていきたい。

第１段階は，当日まで（一部当日や後日を含む）の過程であり，第１次成長と言える。ここでは，４つの成長が見られた。第一は「人間関係の広がり」である。具体的には，①クラス内の話

し合いや練習を行うことによって，他児や保育者との交流が行われる（園内の人間関係の広がりと深まり），②帰宅してから，練習などの様子を伝えるなど家庭での会話が増える（親子など家庭内の関係性の広がりと深まり），また，③プログラムの中やその後に地域の人々との交流する内容があることで，その準備を行ったり，当日地域の人々とふれあう機会がある（地域の人とのふれあい），など人間関係の深まりが見られた。第二は，「社会性の獲得」（人間関係は除く）である。子供たちは集団の中で練習を行ったり，個別の役割（選手宣誓やリレーの選手，劇の配役など）を与えられる中で，自立心，責任感，協調性，友だちを思いやる心，などの社会性を培っている姿があった。第三としては，「能力及び技術の獲得」である。子どもは，練習の過程を経る中で，自ら進んで身体を動かす姿（筋力や運動能力の向上），どうしたら勝てるのか？どうしたらうまくいくのか？などを考える姿（想像力や思考力の向上）があった。また，友だち同士の会話が活発になる，台本を読むなどの姿（ことばの発達），恥ずかしさを克服して役になりきろうとする姿（表現力の向上），など，多くの能力や技術を獲得する姿が見られた。第四としては「体験による知識の獲得」である。これは，通常の保育では体験しない時間（宿泊保育や夏祭りなど夜間の保育），空間（遠足・入園式や卒園式・季節の行事など園外での保育），そしてそれら全体が醸し出す雰囲気などを体験する中での驚きや感動などが当てはまる。運動会や発表会においては，普段は園にいない家族が自分を見て，応援している。そのような姿はまさに「通常の保育にはない世界＝異文化」の中にいることを指すのである。このよう当日に至るまでの試行錯誤の経験は子どもの成長に大きく関わる可能性がある。

第２段階は，行事当日の朝から行事が終わるまで時間である。ここでは第１次成長から第２次成長に移行するための“促し”がある。ここで言う“促し”とは，子どもたちが今まで積み重ねてきた成果を「披露」，「成長を振り返る」体験を指す。日本では行事当日を，「晴れの日」と表現するように，“特別な日”を意味する。そこは，「自分自身を表現する場」であり，「成長を振り返る場」でもある。また同時に，同一の場にいる人に「成長を披露する場」，でもあった。まさにそこは“自分が主人公になる場”なのである。行事にはこのような体験が多く含まれる。

第３段階は以上のような「練習」や「披露」の過程を経た結果生まれる成長である（第２次成長）。第１段階，第２段階を経験した子どもは，その経験を共にした子ども，保育者，保護者などによって，その成果を称えられる場合が多い。つまり，行事が終わった後，子ども間や保育者，保護者が行う「すごかったね」，「頑張ったね」，「よく出来ていたよ」などのことばがけは，子どもに自己肯定感（行事をやり遂げた達成感・行事に貢献した満足感・自分を認められたという安心感），「自己有能感」（自分に対する自信），「園での居場所感」（自分はこの園で価値ある存在である），などの感覚を与える。それらの感覚は，子ども自身が自らを形作る上で非常に重要な部分になると思われる。子どもたちはこのような経験を通して自我を形成し，情緒の安定を図っていくものと思われる。

３．「子どもの成長を促す行事」を計画する際の園の配慮とは

行事をただ無計画に行うだけではこれまで述べてきたような成長を促すことは難しい。それでは，行事を行う上のキーワードは何であろうか。学生たちに質問した，“最も印象に残っている園行事の理由（ポジティブな側面）”（表13）で一番多かった回答は，「達成感」であった。保育者は子どもの行事を計画する際，人間関係を深める，協調力を養う，知識を育む，などをねらいとすることが多い。しかし，これだけでは「達成感」を養うことは難しい。やはり，行事当日に

至るまでの過程で得られた成果を“多くの人に披露”する，あるいは”多くの人とともに振り返る”ことが「達成感」を生み出すと言える。特に「集団」でなにかをやり遂げた経験は，幼児当事者のみならず，周囲の人々にも大きな感動を与えることは多い。子どもはこの「達成感」を得ることで，自分自身の存在意義や価値観，クラスへの所属意識などを高めていく。その意味においても「運動会」や「発表会」を行うことは子どもの成長を促す点でも大きな意味を持ち，かつ心に残る行事だと言えるだろう。また，「達成感」の他にも「異文化性」や「成長の披露」などは，子どもの成長にプラスの要因を与える可能性が高い。保育者は表13のようなポジティブな側面を配慮した園行事を計画していくことが大切であると思われた。

なお，行事を行う上で注意すべき事項として，行事の中での“アクシデント”や“ハプニング”“辛い・恐い”などの体験への配慮があげられる。行事の段階を十分に理解しないまま行事を行った場合，これらの感情を体験した子どもは，「もう二度とやりたくない行事」＝嫌な経験，だけが心に残ってしまう可能性もある。本研究においても３名の学生がこの“嫌な体験”を一番印象に残る行事と記述していた。例えば「節分」で行われる「豆まき」を行う際，鬼が出てくる場合も多い。それはある意味「異文化性」であり，意味ある行事ではあるが，ただ単に「鬼」が出てくるだけでは，子どもにとっては「恐怖の体験」でしかない。行事を行う場合は，その過程や行為が“嫌な思い出”として残らないような事前事後の計画を行い，実行・支援していく必要性も示唆されていると言えよう。また，十分に計画が練られていても，何らかのアクシデントが起こる場合も十分に考えられる。そのような場合も，友だちの励まし（人間関係）などの第１次成長があり，かつ保育者のフォローがある場合は，再度頑張る力が湧き，達成感を得られる可能性は高い（本研究においても６名の学生がそのような回答をしている：表13)。行事は新しい経験を体験できる貴重な機会であるが，うるおいがあり，育ちを促すものでなければならない。保育者はこのことを十分に認識して，行事の計画と配慮を行わなければならない。

以上「行事」による成長を検討した結果を図示すると，以下図２のような可能性があることが示唆された。

Ⅴ．まとめ

保育を志す学生に“どのような園行事が子どもの成長に大切だと思うか”を質問したところ，「運動会」や「発表会」という“保育のまとめとして行う行事”が上位を占めた。このような行事の特徴は，第１段階（前日までの練習など)，第２段階（それを披露する場)，第３段階（周囲からの自己を認められることばがけによる自己肯定）が揃っていることであった。よって，このような段階を踏まえた行事は，子どもの成長にプラスの影響を与える可能性が高いことが示唆された。

Ⅵ．今後の課題

本研究は，行事に関わる研究の第一段階として，学生による幼児期の実体験の振り返りに基づいて考察を行った。しかし，いうまでもなく園行事は子どもが主体となって行うものである。よって，幼児のフィールドに入った研究が必要となるだろう。また，行事は日常の保育を踏襲して行われることが好ましい。そのためには，どれぐらいの行事をどのように計画していくことが子ど

もの成長を最も促すか，を検討していくことも必要であると思われる。これらについては今後の課題としたい。

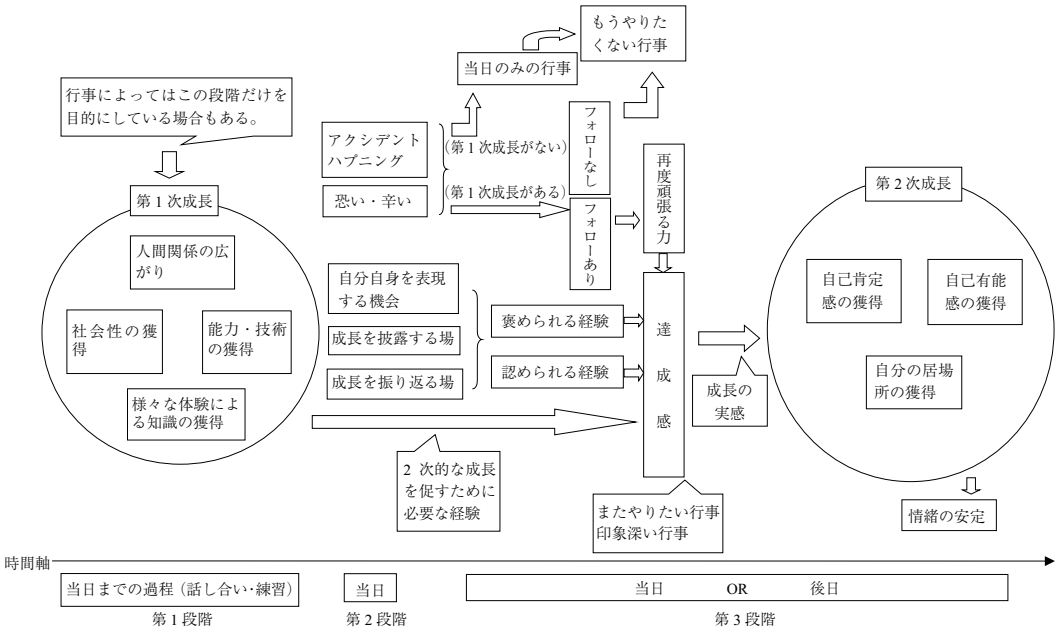

図２　行事による成長

引用文献

１）全国年中行事辞典（2008）三隅治雄編　東京堂出版
２）田中宣一（1984）日本民族文化体系第９巻『暦と祭事』第２章―年中行事の構造―　小学館
３）上記１）
４）繁下和雄（2001）あそびと行事の由来　保育の友　第49巻133号　pp15-19
５）高橋　司（2004）年中行事なるほど BOOK　ひかりのくに
６）張　燕（2001）日本の幼稚園・保育園における行動活動　名古屋短期大学紀要　第39号　pp135-147
７）土屋　由（2011）演習保育方法の探求　第６章―保育の充実と発達過程―　柴崎正行編　建帛社
８）中尾達馬・山内裕子（2012）お泊り保育の意義に関する一考察　琉球大学教育学部　教育実践総合センター紀要　第19号　pp105-121
９）吉岡一志（2008）保育園における物語世界の意味―節分を事例として―　広島大学大学院教育学研究科紀要　第三部　第57号　pp105-113
10）田中敏明・渡邉尚子（1990）保育行事の実態と評価　福岡教育大学紀要　第39号第４分冊　pp293-304
11）山口県内における年間行事に関する調査研究　山口芸術短期大学研究紀要（2011）　第43巻　pp45-55
12）中塚雅子・落合利佳（2008）発達障害児と共に学ぶ―保育園行事へのスムーズな参加―　京都文京短期大学研究紀要　第47集　pp40-49
13）保育所・幼稚園における「障害」がある子どもおよび，いわゆる「気になる」子どもの活動参加に関する調査研究（１）―「運動会」における支援を中心にして―（2005）佐藤慎二ほか　植草学園短期大学紀要　第６・７合併号　pp１-９
14）福永峰子・三浦彩（2011）行事および行事食に関する認知調査　鈴鹿短期大学研究紀要　第31号　pp47-60
15）８）と同じ